

## 第5次 SGS 韓国研修旅行、概要

期間 2013 (H25)-4-23 (火) ~25 (木)

往路 JAL971 関西空港 10:30→金浦空港 12:20、10分遅れで到着

復路 JAL974 金浦空港 15:00→関西空港 16:45、15分早く到着

時期的には、桜が丁度満開で、雨も懸念されたが、最終日以外は傘不要。

気温は、日本でも異常な寒い今年だったが、訪問中はそれほど寒くはなかった。

参加者 6名 (団長: 山川好弘)

訪問地 原州(wonju)、ソウル

原州(wonju)市は江原道(県)にあり、ソウルより東約200km。高速で約2時間。

人口約32万人、老人3.6万人11%。町のいたる所でインフラ、道路工事中。

首都ソウルの官庁を原州(wonju)に移す話もあるとか。

日程と

4月23日(火)

訪問先

原州ハレ信用協同組合

ソン教授事務所

原州協同社会経済ネットワーク

原州医療生活協同組合

무위당(无爲堂)記念館

原州老人生活協同組合

歓迎会(原州老人生活協同組合-マンナムの家)



ホテル前

4月24日(水)

原州カトリック社会福祉館(ソン教授)

原州市老人福祉館訪問(ソン教授)

原州生協生産地訪問(原州生協ノ局長)

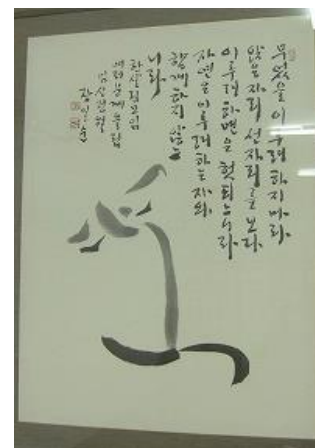
15時ソウルへ出発

4月25日(木)

金浦空港付近の発酵食品づくりの産地見学

Dure 生協の店舗視察

无爲堂記念館→



印象

韓国研修旅行は、SGSとしては4年ほど途絶えていたが、このたび10周年ということもあり、計画された。参加者は6名であった。各所をめぐるうちに、移動や研修場所、先方への負担などを考えると、丁度良い人数であったように思われる。団体としては10名程度が上限かもしれない。

先方の対応も、非常に行き届いたものであり、懇切、丁寧であった。

保田先生の師弟としてのつながりが、これほど強いことに非常に感心し、また、行った先々では、われわれ個人の旅行では味わえない中身の濃さであった。

迎えてくださった、韓国側の対応も、ホスト側としての姿勢に感心した。

それぞれの日程に、保田先生の交流のある方々のお出迎えが各所であり、時間的な配分も、分刻みに組み立てられ、それぞれの訪問先で多数の方々に迎えていただいた。

## 概要

原州生協 訪問先は、私には理解しきれていないところが多々ある。  
老人生協と言うものが日本にはなく、韓国、特に原州 (wonju) 市で発達したもの。  
他市でも発達しているそうだが、必ずしも、全部がうまくはっていないと聞く。  
韓国の老後における格差が、日本以上にあり、しかも日本以上に早く進む少子高齢化の中で、  
高齢者に対応していく、けん引役の老人生協であり、市民活動の活発な原州 (wonju) 市といえる。

具体的には、生協組織で、信用金庫、コンビニ的な小売の営業権、商品生産権 (農業、酪農から加工含む)、  
さらに市内の清掃、一般防犯、警備会社経営、接骨整形医院経営、農家フォロー、農法、開発、農村インフラ等々。

主に実業による収入、寄付金、原州 (wonju) 市からの委託による収入があり、働く場の提供による、所得の低い老人へ生活資金給与を支払い、さらに後で紹介するボランティアを行う。

もちろん、市自体も老人への活動の場を作っているが、公のため、だれでも参加型 (質よりも量)、生協は、出資による民間組織で、収入を再配分し市活動よりも数倍の給与支払いができています。

このような中で、ボランティア活動として、老人への教育 (パソコン、習字、健康) さらに、gym的な体力維持の場提供、余暇としてダンスやスポーツ、そして共働き家庭、離婚家庭の子供への保育園的なものを、これら多くを無料で提供している。

その他にも、いくつかの生協があり、それぞれ特色もあるが、おおむね非常に幅の広い分野で活動する。老人対応の設備や、整形医院は無料で提供している。

なぜ、これほどのことができるのか?

老人生協の上部、理事役員の人材の豊富さにある、、、と説明された。  
教授、国会議員、弁護士、区長、村長、医師、看護師、役所各部門で定年された方。  
それぞれ委託を受ける場合に、各人材が元部下と交渉し、3年間の受注をしていく。  
一般市民へも出資や、仕事を取りに行く。

なかには、カソリック教会のボランティアとも結びつき、別組織で活動しているケースもある。  
委託受注など、それぞれの生協は競合すると思うが、訪問時は相互に中がよい印象であった。

## 原州

生協が経営する温室栽培見学

### 生産地

当日は唐辛子をハウス栽培を見学した。

このハウスは、2重屋根に、苗を置く棚の下部に温水を通すパイプ、温度調整用の天井用のシートもある、非常に立派なもの。

韓国では、FTA の関係で工業で稼いだ金を農業などに回す政策。  
少しでも先進的な研究をしているところには、お金を回す。  
このハウス農場には、4億 won が提供されたとのこと。

この補助がなかったら、継続的にやっていけるか、少々危ふさも感じる



## 原州 (wonju) の米飯給食

原州生協の米、野菜は有機 (全部かどうかは不明) で生協組合員のみが買える。  
精米工場で聞いたが、子の米には原州市認定マークがあり、このマーク付きのみが給食に、地産地消に提供される市条例が制定されている。これも生協活動の強力が現れている。

ソウル 当初予定に入っていなかったが、発酵→酵素食品づくりの現場を見学できた。  
発酵→酵素であって、2年物、3年物をカメ（甕）から、直接試飲させていただいた。  
貴重な体験であった。  
個人的には、SGS-7グループで作っている植物酵素と、非常に似た味であった。  
他にソウルを中心に展開する、Dure 生協の販売店の一つを訪問見学した。



以上、概要

SGS 韓国の老人生協の活動内容は、多岐にわたり素晴らしく、かつ黒字経営しておられる。  
韓国には、日本の健康保険制度や年金制度はないと聞いた。  
内容自体は、日本では各市町村などが手掛ける福祉が多く、あるいは民間の老人福祉施設などが相当する  
ように思うが、経営として生産活動と営業行為までしているところはないと思う。  
ただ、日本の福祉施設のパン屋さんなどは、自立経営しているところもあるかもしれない。  
これらの違いは、韓国と日本の福祉政策の差であり、成り立ち歴史的な違いがあるのだろう。

あえていえば、「グループわ」のようなNPOに近いように思う。たとえば、  
環境未来館などは市の委託を受け、子供や大人への地球温暖化や資源ごみへの意識付けが主な目的であり、  
出務したものは少額の活動費を受ける。しかし、これは生活のためではなく、むしろ、ボランティアの  
領域であり、個人の趣味、社会参加、日常生活の励みにしている。

韓国の老人生協にとって、SGSは、まだ実行していない老人対応の領域かもしれない。  
上記のように、生活弱者への各種のサービス、ボランティア、職業の提供など、様々な活動をして  
おられる。  
しかし、急激な少子高齢化が進む中、メンバーそれぞれが、その領域でのトップ人物ではあるが、  
SGSのような「次世代のために」さらに学習し、行動する、自主運営の形態はこれからのものと思う。  
韓国においては生活強者、また健康老人であることが、次世代への負担を軽減し勝ち組でもある。  
生活強者から弱者へ対応の流れだけではなく、次世代へという視点が、格差が大きく、少子高齢化が急速  
に進む韓国の近い将来には、日本以上にSGSのような形態が重要になってくると思われる。  
国情や歴史が異なるが、日本のやり方とは大幅に異なり、われわれの発想からは出てこない、見習うべき  
ものもあるように思われる。  
われわれSGS院生は、また、そのモデルにふさわしいSGSでありたいとも思った。

以上  
記：高島忠義